

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	JGOG2043A-2: 術後化学療法を受けた子宮体癌における新たな予後因子の検討		
2. 対象患者	JGOG2043試験に登録され、弘前大学医学部附属病院産婦人科で術後化学治療を受けた子宮体癌7例		
3. 対象となる期間	2006年10月1日		～ 2009年9月30日
4. 実施診療科等	産科婦人科		
5. 研究責任者	氏名	二神真行	所属 産科婦人科学講座
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	代表 久留米大学医学部産科婦人科 西尾真		
7. 研究の意義	<p>子宮体がんにおいて、様々な予後を規定する因子が報告されています。近年子宮体がんの予後不良因子として治療前のBMI、血清アルブミン値、白血球数値、ヘモグロビン値、血小板数値、NLR(好中球数/リンパ球数比)が注目され、従来の病理学的因子より新たな予後因子として重要との報告もあります。しかし、単施設や少数例の報告であり、更には子宮体がんの術後化学療法症例で検討したものはありません。</p> <p>本研究では、当院ですでに以前行われた子宮体がんの術後補助化学療法のランダム化第Ⅲ相試験であるJGOG2043試験を実施した方を対象に、上記因子について検討したいと考えています。</p>		
8. 研究の目的	今回JGOG2043の症例を用いて新規因子を検討する事で、子宮体がんに対する新たな予後因子を抽出し、また今後の実地臨床に有効な分類や臨床試験の新しい層別化因子を探索する事を目的としてこの試験を計画しました。		
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合は方法等)	すでにJGOG2043試験の際に収集された患者さんの診療情報を用います。具体的には、治療前のBMI、血清アルブミン値、白血球数値、ヘモグロビン値、血小板数値、NLR[好中球数/リンパ球数比]になります。これらの因子を用いて、子宮体がんの生存に関する予後因子となっているかを単変量、多変量で解析で検討いたします。		
10. 個人情報の保護	<p>対象となるデータについては、カルテから抽出後、個人を特定できないよう加工(匿名化)し、ネットワークに繋がっていないPCに保存し、管理します。</p> <p>また、拒否の申し出があった場合は速やかに当該患者様のデータを削除します。ただし、既に発表してしまった場合は、データの削除、修正には応じられませんので、御了承願います。</p>		
11. 利益相反に関する状況	本研究は産科婦人科学講座の研究費によって公平・公正に実施されます。なお、本研究の利益相反状態については、弘前大学大学院医学研究科医学研究(臨床研究等)利益相反マネジメント委員会に届け出ています。		
12. 連絡先	弘前大学大学院医学研究科 産科婦人科学講座		
	電話	0172-39-5107	FAX 0172-37-6842